

皆さんからの声はどうやって大阪市に届くの？

「議員は何をしているのかよく分からない」「議会はどんな役割をしているのか分からない」という声をよく聞きます。議員は、見えてきた改善点や修正点を議会を通じて大阪市に提案し、また現状の施策で対応できない場合は、新たな取り組みを大阪市に提案します。議会で質疑・提案するためには、それぞれの案件について十分な理解が必要になります。

皆さんからのご相談から現在の施策の現状分析と課題の整理を行います。そして、今できること、できないことは何か？を明らかにしていきます。そのために、ヒアリング勉強会、実地の調査・視察などを行っているのです。皆さんからのご相談が、今ある施策の不備や課題の改善につながるのです。ぜひお声を届けてください。

市民の皆さんからの声



→ 相談
→ 陳情
→ 提案

2 協議 議員団でどのように課題に取り組んでいくか協議します。

3 ヒアリング

議員や議員団として施策の現状を各局からヒアリングしていきます。



各局ヒアリング



省庁ヒアリング



民泊についてヒアリング

5 議会質疑・提案

本会議での一般質問、代表質問、委員会質疑で議会を通じて大阪市に声を届けていきます。9月～12月は、昨年度の決算を審査する議会で事業の評価を行い予算審査につなぎます。12月には次年度の予算要望。

2月・3月は次年度の予算を審査する議会を行います。大阪市の常任委員会と決算を審査する特別委員会、特定の課題に関する審査や調査研究などを行うための特別委員会があります。81人の議員は、いずれかの専門部会(委員会)に所属します。



本会議



委員会質疑



予算要望



1 皆さんからの声をお聞きします

4 実地調査・視察

現場に行かないと分からないことばかりです。



建設港湾関連施設視察



大阪市自然史博物館現地視察・ヒアリング



民生保健委員会行政視察(福岡県・北九州市)

2026 vol.68 -市民とつながる通信-

顔が見えるまちづくりで、すべてのひとに出番と居場所を!!

たけ 社会福祉士・ケアマネジャー
大阪市議員
武なおき

問合わせ先

武直樹市民協働事務所
mail: take@take-naoki.com
〒544-0003 大阪市生野区小路東1-16-27
☎06-6753-6714

市政
報告



ありったけの
チカラで
生野のために!



▼公式HP

武直樹の念い

4月になり、覚悟を決めて駅立ちを再スタートしました。皆さんからのお声かけに、日々元気をいただいています。3年前、今任期最初の5月議会において、議員定数の削減が行われました。大阪市議会は81人から70人へ、生野区は人口13万人で4人から3人となります。10万人の自治体だと20人ぐらいの定数があります。小さな声、届きにくい声、多様な声が届かなくなる・・・その懸念から、私は反対しました(反対は3人のみ)が、賛成多数で可決されました。議員は少ない方がよいという民意でもあります。また、この15年間、大阪市を廃止するかどうかの議論に向き合い、2度の住民投票にも深く関わってきました。結論が出ているにもかかわらず、再び時間や費用をかけ、賛否で住民が分断される議論が繰り返されることには、正直なところ、強い葛藤があります。私の原点は、社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての立場です。

そして、最も取り組みたいのは「地域福祉の推進」です。大阪市が存続することが決まり、今任期は生野区の課題に正面から向き合い、時間をかけて丁寧に取り組んでいきます。一定のところまで前に進めることができたことに心より感謝申し上げます。そんな状況でもあり、このまま引退させていただくか、活動を再スタートするか、ずいぶん悩みました。しかし、現場でいただく声、支えてくださる皆さんの声に背中を押され、もう一度前に進む決意をしました。これからも、ありったけの力で、生野区、大阪市のために最善を尽くし取り組んでまいります。引き続きのご支援よろしく申し上げます。



「大阪市を廃止して特別区を設置する(いわゆる都構想)の3回目の住民投票」については、必要ありません。

2015年・2020年と2回、究極の民主主義として「住民投票」を2回も実施し、大阪市を廃止して特別区を設置すること(いわゆる都構想)は否決され、大阪市の存続が決まりました。市民を賛成派と反対派に分断する3回目の住民投票は必要ありません。なぜなら、現在、大阪府と大阪市には2重行政はありません。また、国会で議論が進む、副首都は、大阪市を廃止しなくても実現することができます。

5月議会で武直樹は次の役職に決まりました。任期最終年度となります。

委員会：都市経済委員会
会 派：政調会長

議会質疑はライブ視聴、録画視聴ができます。

大阪市の会 中継 🔍 検索





あいつだけのチカラで生野のために

最後の議会となる筋原区長から答弁



武直樹は、3月12日と18日に質疑に立ちました。今期はこれまでやり残してきた生野区の課題について、時間をかけて取り組んできました。一定のところまでたどり着くことができたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

一方で、事業ごとに縦割りで行われてくる施策を、現場で誰がつなぎ、調整していくのかという課題は、まさに“永遠のテーマ”です。必要性はますます高まっている一方で、実務としてはむしろ難しくなっていると実感しています。現場は全体を見渡しにくく、責任者は現場の細部が見えにくい。そのギャップが大きな壁となっています。

また、最後の議会となる筋原区長からは、区民の約4人に1人が外国籍であり、住民の国籍の数も約80か国にのぼるグローバルタウンの生野区で、地域共生社会の実現に向けてどのように取り組むのか答弁いただきました。

区地域福祉計画について

誰もが自分らしく安心して生活していくためには、住民、行政をはじめ地域に関わる様々な主体が力を合わせ、支えあう仕組みを築くことが重要。その基盤となる地域福祉計画策定のプロセスについて質疑。

地域をとりまく情勢の変化や様々な福祉課題に対応するため、区地域福祉計画に基づく政策の重要性が増す中、大阪市は「市地域福祉基本計画」を踏まえ、区職員向けのガイドブック作成など各区の福祉計画策定支援を行ってきた。

生野区では令和8年度次期地域福祉ビジョン策定に向けて、区役所と地域社協の共催でワークショップを行うなど、広く地域に関わる人々の声を計画に反映させる取り組みを行っている。

このような住民参加の仕組みづくりや取り組みを各区同様に進めていけるよう要望。またそのためには、合意形成のプロセスを担える人材育成を図り、現場の職員に寄り添った支援を行っていくことが不可欠であると指摘。

障がい福祉サービスと介護保険制度の適用関係

障がいのある方が65歳になった時、障害福祉サービスと介護保険サービスのはざままで制度利用の混乱がおきていることは、以前より指摘されている。大阪市としては、「障害福祉サービスと介護保険の適用関係」についてわかりやすくまとめたものをHPで公表するなど状況の改善に努めているが、現場に落としこむ作業ができていないのではないかと。

生野区では介護保険のケアマネジャーと障害福祉サービスの計画相談事業所の合同研修会を開催し、連携強化の良い事例になった。政策を現場に落とし込んでいくには、地域における具体的なコーディネートが必要。その役割を担うのは誰なのか、問題提起しました。



人生会議(ACP)について

大阪市は、人生の最終段階における「医療・ケア」等の希望を、家族や友人、医療・ケア関係者が共有し、いざというときに本人の意思を尊重した選択ができるよう、「人生会議(ACP:Advance Care Planning)」の普及に取り組んでいる。専門職である医療・介護従事者における現状と、認知度向上及び実践に向けた取り組みについて質疑。

ACPについては、認知度も実践例も一定程度高まりつつあり、さらなる理解促進と実践へつなげるため、広域的連携推進、事例共有、多職種研修などを通じた「顔の見える関係づくり」など具体的な取り組みを一層進めるよう要望。



居住支援について

令和7年10月の住宅セーフティネット法改正を受けて、居住支援の取り組みを強化するため、福祉部局と住宅部局の協働による、地域レベルの各関係機関の連携推進の取り組みについて質疑。大阪市では居住支援にかかわる様々な関係者との連携が不可欠であるとの認識から、福祉局と都市整備局がともに各区への保健福祉センターへのヒアリングを行い、支援連携促進のための交流会を開催するなど、具体的な取り組みを模索してきた。要望・提案してきた居住支援協議会の設置が令和8年度に実現します。



医療的ケア児について



医療的ケア児等が地域において必要な支援を受けながら安心して生活し続けることができるためには「医療的ケア児等コーディネーター」が重要な役割を担う。「医療的ケア児等コーディネーター」の養成状況と配置状況について質疑。大阪市は来年度から「重症心身障がい児者地域生活支援センター事業」を拡充するが、必要に応じた使いやすい施策とするために、支援策設計プロセスに当事者・家族・支援者等、幅広く関係者が参画できる機会を作っていくことを要望。

特区民泊について

特区民泊は令和8年5月29日をもって新規申請受付停止となることから、駆け込み申請による急増が見込まれる。住民からの深刻な生活環境悪化を訴える声が相次ぐ中、行政の役割はなにか、地域において調和のとれた民泊運営を促進するため、法令で義務付けられている住民説明会について質疑。大阪市として、申請受付時に、民泊事業者に対して町会への丁寧な説明とともに、町会への加入を促す働きかけを行うよう要望。

また、

- 自殺対策におけるゲートキーパー(命の門番)のについて
- 就労移行支援加算の見直しについて
- アルコール、薬物、ギャンブル等依存症対策について

も質疑しました。

年度末には、筋原生野区長があいさつに来てくれ懇談しました。

4年間ありがとうございました。引き続きの生野区での活躍を期待しています。
「区長最後のタスキ」ってすぐポケットからでてきて笑いました。

